

# 新斎場整備事業について

令和7年3月26日（水）  
相模原市PPP／PFI地域プラットフォーム

## 次 第

### I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過

- 1 市営斎場の現状
- 2 市内死亡者数の将来推計
- 3 新斎場予定地「青山」
- 4 これまでの経過

### II 基本計画策定に向けた検討状況

- 1 施設規模・機能検討の方向性
- 2 アクセス道路
- 3 土砂災害対策

### III 今後のアイデア創出に向けて

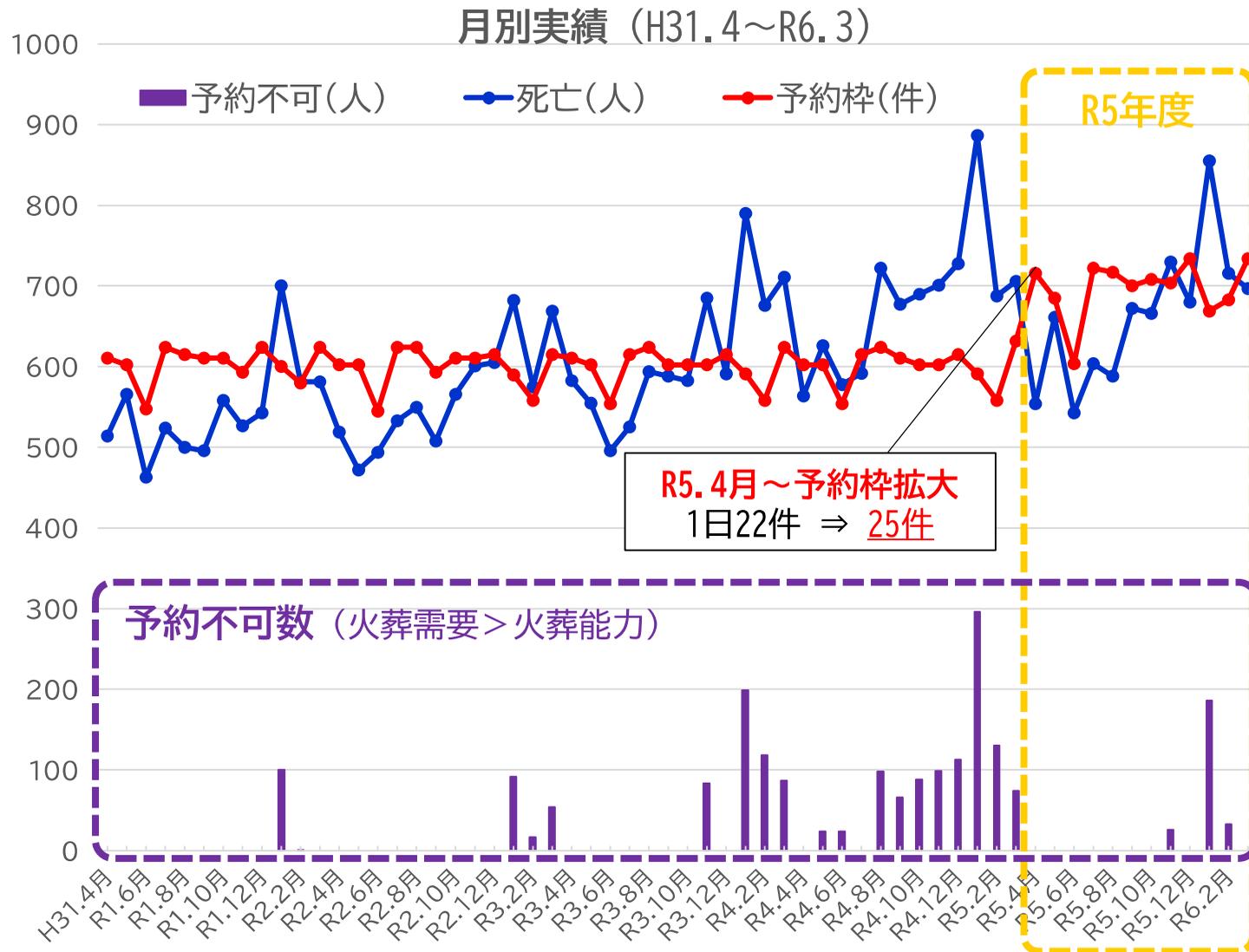
- 1 次年度の実行予定（基本計画等検討業務委託）
  - ポイント① 整備・運営手法の検討
  - ポイント② 災害対策、環境対策
  - ポイント③ 新斎場のコンセプトの設定
- 2 本日の対話内容

相模原市市民局 区政推進課 斎場準備室

# I 新斎場整備の必要性和これまでの経過

# I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過

## 1 市営斎場の現状



実績値を月毎で見た場合、

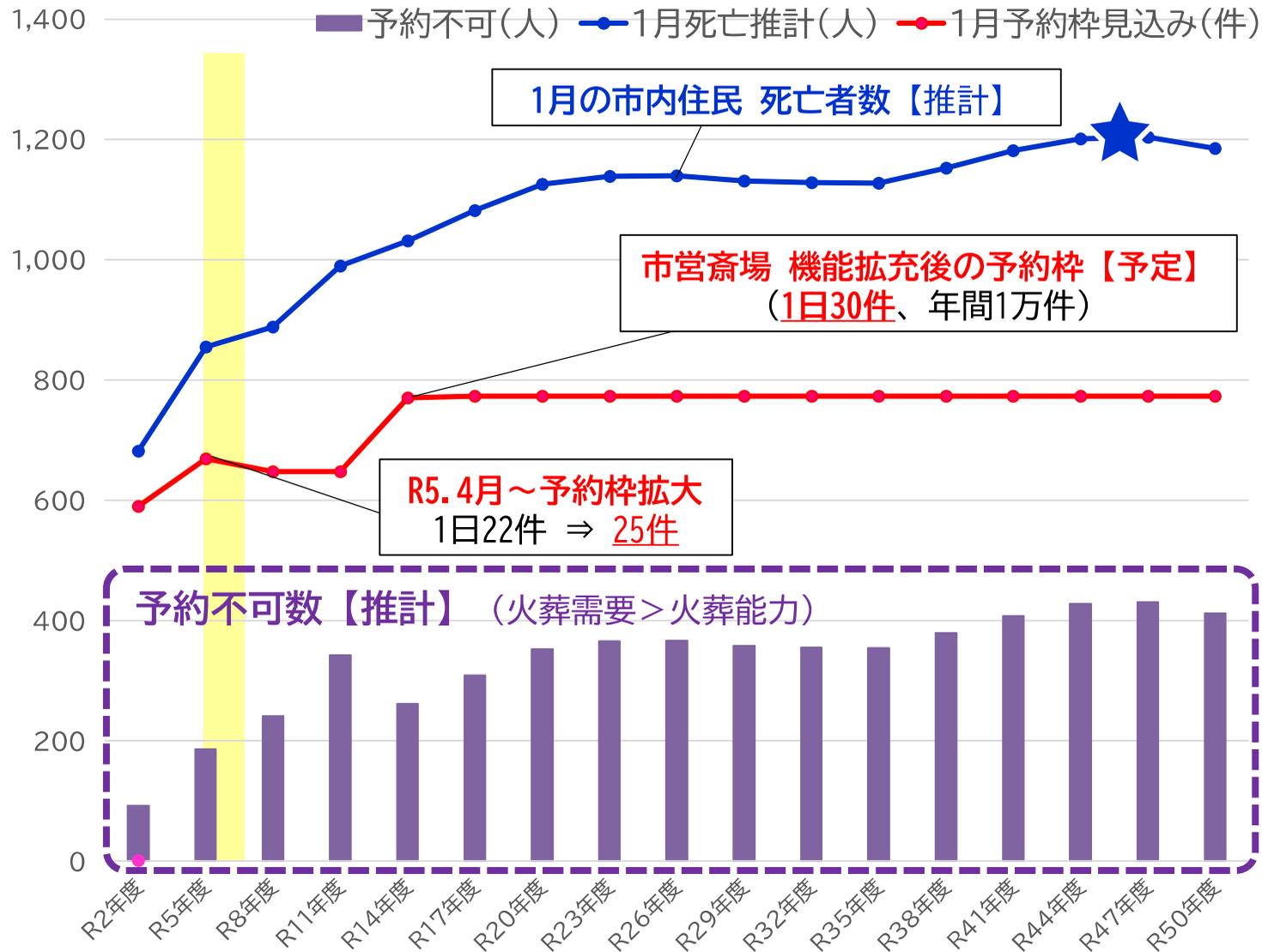
- 令和5年度から予約枠を拡大し、逼迫状況が緩和
- **予約不可数** (※1) は、  
R4年度： 1,012人  
R5年度： 245人 (前年比▲767人)  
(左記 **黄色点線内**)
- 統計上、最も死亡者が多い  
1月の**火葬待ち日数** (※2) は、  
R4年度1月： 平均 10日  
R5年度1月： 平均 7日 (前年比▲3日)

※2 火葬待ち日数：予約日から火葬日までの日数

⇒R4年度と比べて逼迫状況は緩和したが、予約不可となる状況は依然としてあり、冬季の待ち日数も長い

# I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過

## 2 市内死亡者数の将来推計



将来推計を年毎(※)で見た場合、

※ 統計上、年間で死亡者が最も多くなる1月の死亡者数のみを抜粋

- 死亡者数のピークは令和40年代(見込み)
- 市営斎場について、長寿命化改修に合わせて機能拡充も行い、予約枠を1日30件(年間1万件)にすることを目指しているが、最大限機能拡充をしても、増加し続ける死亡者の数に対応することは不可能

⇒ 市営斎場の機能拡充のみでは課題解決にならない

⇒ 新斎場の整備は必要不可欠

# I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過

## 3 新斎場予定地「青山」



# I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過

## 3 新斎場予定地「青山」

### ● 位置図



### ● 全景



#### 【所在地】

緑区青山字熊ノ平2193番2 他

#### 【敷地の規模】

約 4ヘクタール

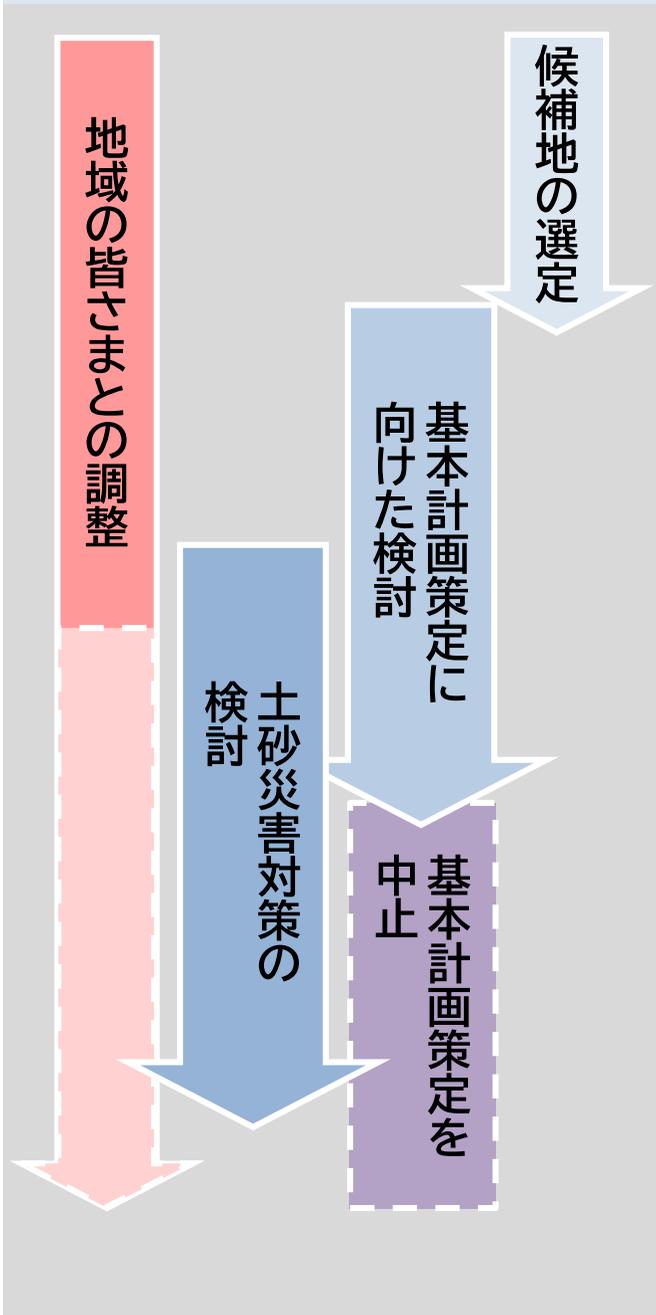
#### 【土地所有者】

帝京大学 (帝京大学 青山グラウンド)

#### 【近隣住民の状況】

グラウンドの境界から概ね300m以内に人家 十数軒あり

# I 新斎場整備の必要性とこれまでの経過



- 平成26年 5月 ● 「相模原市新たな火葬場整備基本構想」策定
- 候補地の選定
- 平成31年 2月 ● 最終候補地「青山」決定（政策会議）
- 令和元年 9月 ● 串川地域振興協議会から要望書を受領
- 令和元年10月 ● 令和元年東日本台風 ⇒ 土砂災害対策の慎重な検討
- 令和2年 2月 ● 令和元年度PPP/PFI地域プラットフォームでの説明実施
- 令和3年 4月 ● 「第1期 行財政構造改革プラン」策定  
⇒土砂災害対策等の課題解決に注力
- 課題解決に向けた検討
- 令和5年 8月 ● 戦略会議 ⇒ 事業推進の方向性を意思決定
- 令和6年度～ 改めて事業推進（基本計画策定に向けて検討再開）

## Ⅱ 基本計画策定に向けた検討状況

## Ⅱ 基本計画策定に向けた検討状況

### 1 施設規模・機能検討の方向性

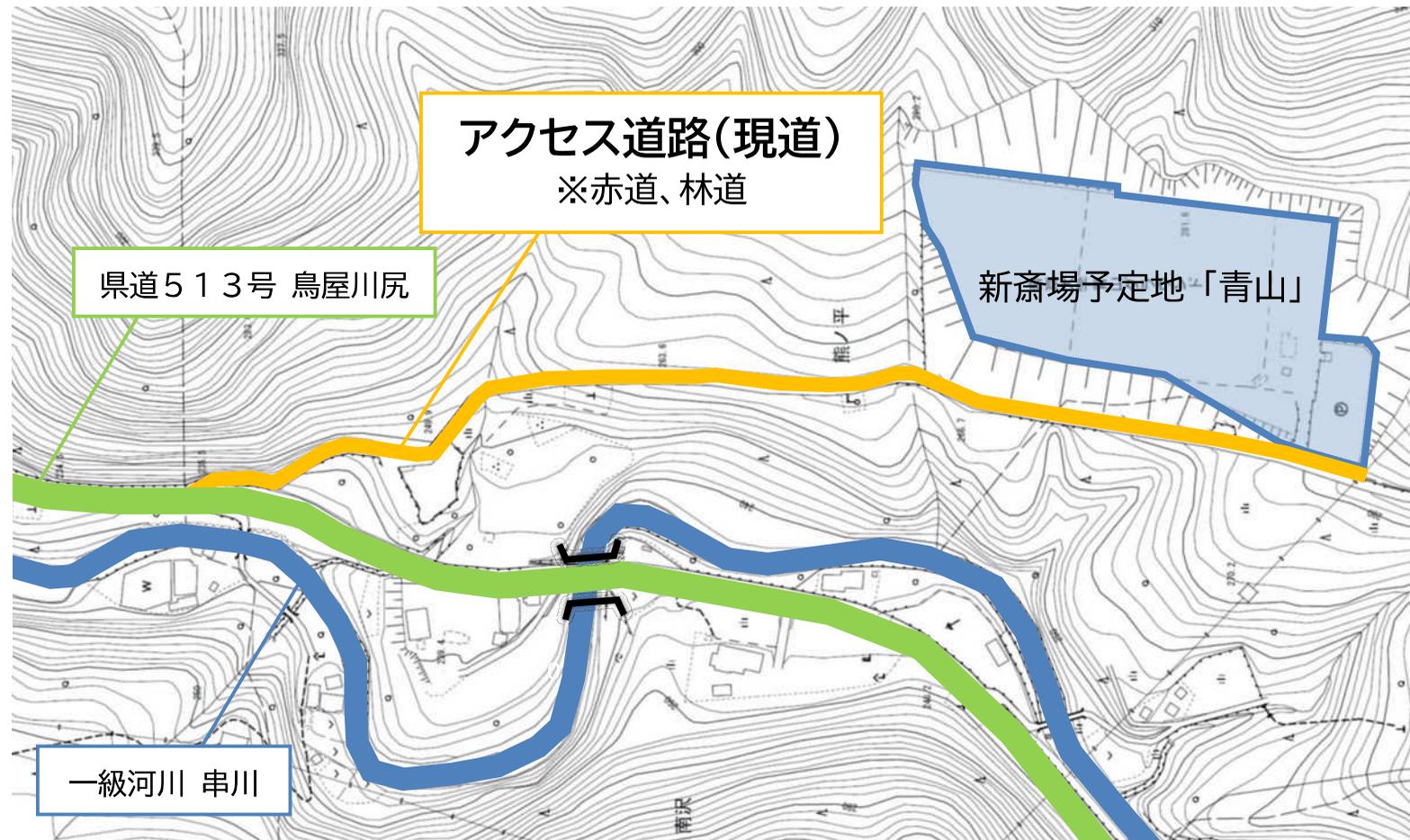
令和元年度にも施設規模・機能検討の方向性を整理した経過があるが、本市の火葬を取り巻く状況が当時と比べて変化していることから、現状をふまえ、方向性を次のとおり変更

	令和元年度当時の検討案	方向性の変更	変更理由
火葬炉の数	8 炉	市営斎場 長寿命化改修後の火葬予約枠数を踏まえ、適正な規模を検討	市営斎場における予約枠拡大の取組みの結果を踏まえ、 <u>新斎場の担うべき火葬炉数について再検討を要するため</u>
式場の規模	計 200 席程度 (パーティションで 1～4 室に分割)	葬儀の小規模化の傾向等を踏まえ、時代に即した利便性の高い規模	近年の葬儀の小規模化を踏まえ、 <u>市民の皆さまにとって利便性の高い、適正な規模とするため</u> 〈参考〉 30 人以下の葬儀…全体の約 8 割
駐車場の台数	少なくとも 200 台程度	式場の規模等に応じて必要な台数を確保	<u>式場の規模の検討と並行して必要台数を試算する必要があるため</u>

## II 基本計画策定に向けた検討状況

### 2 アクセス道路 ⇒道路改良工事に向けた予備設計業務を委託中

- 県道513号から安全に出入りができるように、アクセス道路と県道との交差点新設を検討
- すれ違いに必要な幅員の確保や、道路勾配の緩和、センターラインの設置等をあわせて検討



#### アクセス道路 (現道) の諸元

現況交通量	ほぼなし
現道幅員	3～5m
舗装	コンクリート舗装、 アスファルト舗装
曲線半径	15m未満の屈曲カーブ
縦断勾配	5%～12%以上

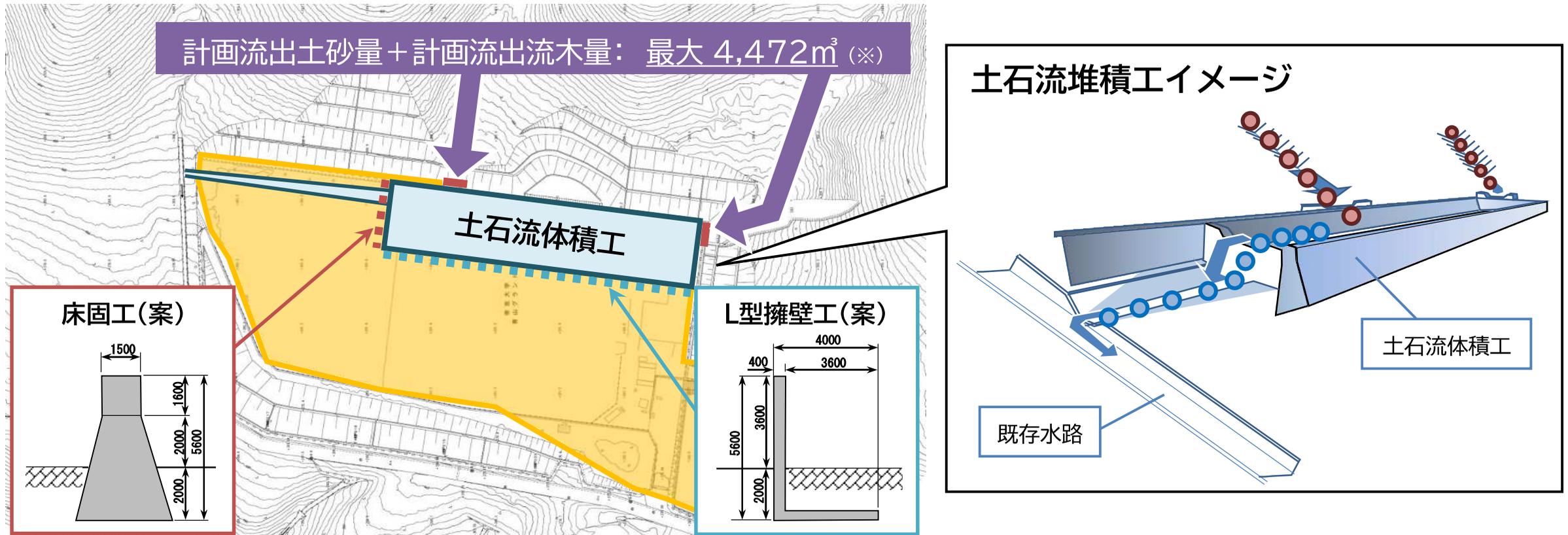
※ 新斎場予定地 (帝京大学 青山グラウンド) にアクセスできる唯一の道路

## II 基本計画策定に向けた再検討状況

### 3 土砂災害対策 ⇒土砂災害対策施設の予備設計業務を委託中

- 安全性を担保し、施工性、維持管理性、経済性に優れた土砂災害対策施設として土石流体積工を検討中
- 今後、ソフト対策（運用面での対策等）を検討予定  
〈例〉施設閉鎖・アクセス道路通行禁止の判断基準策定、避難計画策定など

〈参考〉平面図イメージ（令和4年度検討結果をもとに作成）



※ 〈参考〉令和元年東日本台風時に上記の溪流から流出した土砂の量: 600m<sup>3</sup>程度

## Ⅲ 今後のアイデア創出に向けて

### Ⅲ 今後のアイデア創出に向けて

#### 1 次年度の取組予定（基本計画等検討業務委託）

令和8年度中の基本計画策定等に向けて、令和7年度は、その基礎となる調査・検討等を実施

##### 令和7年度 基本計画等の基礎となる調査・検討

- 目的
  - ・ 適正規模の検証
  - ・ コストの概略提示（概算事業費及び整備後の収支予測）
  - ・ 事業スケジュールの概略提示 など
- 業務内容
  - ・ 新斎場のコンセプトの検討
  - ・ 施設・設備の検討
  - ・ 土地利用の検討
  - ・ 造成・基盤整備の検討
  - ・ 火葬タイムテーブルの検討
  - ・ 整備・運営手法の検討（事業スキームの抽出、民間事業者意向調査、簡易VFMの算出等）
  - ・ 概算事業費の算出
  - ・ 事業スケジュールの作成 など

##### 〈参考〉令和8年度 基本計画策定等のための詳細な検討

- 目的
  - ・ 基本計画の策定
  - ・ 事業手法の決定 など
- 業務内容（見込み）
  - ・ 左記の業務内容について、より詳細な検討
  - ・ 運営面の検討（ソフト面での土砂災害対策等を含む）
  - ・ 環境対策 など

※ 現時点での想定案のため、今後の進捗等に応じて変更となる場合があります

### Ⅲ 今後のアイデア創出に向けて

#### ポイント① 整備・運営手法の検討

- 本事業におけるPPP／PFI導入可能性の検討を行う
- PPP／PFI手法をとる場合、その事業範囲についても検討が必要

〈参考〉新斎場整備事業に含まれる主な業務のイメージ

#### 新斎場整備事業

##### 整備

###### 施設整備

(電気、給排水、植栽、外構等を含む)

###### アクセス道路整備

(道路改良工事)

###### 土砂災害対策施設整備

##### 運営

#### 【PPP／PFI事業の範囲検討にあたっての課題】

- ・ 「運営を事業範囲に含めるか」の検討のほか、「3つの整備業務のうち、どこまでを事業範囲に含めるか」についても検討が必要  
⇒各業務を範囲に含める／含めない場合に想定されるメリット／デメリット、条件等について整理
- ・ 新斎場整備は喫緊の課題であるため、1日でも早い供用開始が可能なスケジュールを立案する必要がある  
⇒効率的かつ合理的なスケジュールの立案を考慮した上で、事業範囲を設定
- ・ 新斎場予定地へのアクセス道路は1つしかないため、アクセス道路整備が、他の整備業務のスケジュールに影響を与える可能性が高い  
⇒業務の順序等にも注意しながら事業範囲を検討

### Ⅲ 今後のアイデア創出に向けて

#### ポイント② 災害対策、環境対策

- ソフト面での土砂災害対策について検討
- 施設のZEB（ZEB Ready）化を含め、環境対策について検討

#### ポイント③ コンセプトの設定

- 統一感をもった基本計画策定に向け、新斎場予定地の特性等を踏まえ、新斎場のコンセプトを設定
- ・ 新斎場予定地は、自然豊かな山々に囲まれており、静かで落ち着いた環境の中で故人を見送ることが可能な土地
- ・ 予定地の特性等を踏まえて、予定地の持つ強みを活かしたコンセプトを設定し、計画策定に取り組む

### Ⅲ 今後のアイデア創出に向けて

#### 2 本日の対話内容

これまでの検討成果や予定地の地理的条件等を踏まえ、主に次の項目について、対話をお願いします。

項目	内容
① 事業内容・事業手法への提案	<ul style="list-style-type: none"><li>事業実施に伴い想定される施設の整備・運営手法がありましたら、お聞かせください。 例) PPP/PFIの可能性、整備パターン(事業範囲)など</li><li>※ 特に、PPP/PFIとする場合の事業範囲について、施設整備・運営の他に、アクセス道路改良及び土砂災害対策工の工事等を範囲に含める場合に想定される課題や条件等について、御意見をお聞かせください。</li></ul>
② 災害対策、環境対策	<ul style="list-style-type: none"><li>整備検討エリアの一部が土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域であることを踏まえた、運用面・制度面等のソフト面での対応策について、アイデアや御意見がありましたら、お聞かせください。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>施設のZEB化(ZEB Ready化)に対するアイデアや御意見がありましたら、お聞かせください。</li></ul>
③ 事業化の課題・条件、行政に期待する事項	<ul style="list-style-type: none"><li>その他、事業化に向けた課題や条件、行政に期待する事項がありましたら、お聞かせください。</li></ul>